

会議名称：令和元年度11月期古賀市社会教育委員の会議

日時：令和元年11月20日（水） 19時～20時30分

場所：リーパスプラザこが 交流館103会議室

主な議題：「第6回古賀市生涯学習笑顔のつどい」振り返り（2回目）について

傍聴者数：なし

出席者：松本委員、平島委員、角森委員、國友委員、橋爪委員、秋山委員、村山委員、丸井委員

（以上委員8名）

中村課長、村上参事補佐、森田、小嶋

欠席者：井浦委員

事務局：生涯学習推進課社会教育振興係

配布資料：レジュメ等

会議内容：以下のとおり

松本議長：

みなさんこんばんは。ただいまから11月の社会教育委員の会議を始めたいと思います。

今日は井浦委員が欠席、平島委員と丸井委員が30分ほど遅れるそうですのでご了承ください。

それでは今日の議題は「第6回古賀市生涯学習笑顔のつどい」の2回目の振り返りということで、前回事務局からアンケートの分析等を出して頂いてましたが、今日は第7回に向けての方向性、こういった形式がいいかということを出していきたいと思います。

では事務局お願いします。

事務局：

はい。ではお忙しいところありがとうございます。

前回の振り返りの概要をかいつまみますと、参加人数136名というのは内容からすると1回目からほぼ同数ということで、笑顔のつどいの基本的な参加者数としては150名弱であるというお話がありました。

それに対して、今回から初めて分科会形式を取りまして、その分科会の参加率が34%というのが、思惑から大きく外れておりました。

ただ、参加した方の満足度というものは非常に高く、そのことから今後参加率を上げていくことについての課題、分科会への参加を考えている方々への適切な周知方法をどうするかなどの話が出ておりました。

今回は議長の作られましたレジュメに沿って、改善案を考えていただきたいと思います。

またその改善案を踏まえて、次回につながるテーマ案や、発表者の選定などのご意見をいただきたいと思っております。

松本議長：

ありがとうございました。

事務局からは4点、1点目は参加人数については150名弱が基礎数でいいのではないかと、2点目はアンケート内容では満足度が高い点から、内容についてはこれでいいのではないかと、3点目は分科会への参加者の減少をどう食い止めるかという課題、4点目は周知方法の改善、ということでした。

レジュメに前回の皆さんのご意見をまとめましたのでご覧ください。

まず参加者数ですが、136名に対し分科会への参加者数が46名、34%ということで、半分以上帰られたということでした。

成果としては、オープニング、アトラクション、公演内容とも「とても良かった」、「良かった」が非常に多く、分科会についても、参加者数こそ少なかったものの、46名中44名がとても参考になったということでした。

また、具体的な記述についても満足度の高さが伺えました。

課題ですが、分科会の参加者が激減したことが一番の課題であり、成立しない分科会が3つもあったということです。

成立しないという定義を私は参加者数が10名未満と考えておりました、発表者の労力に見合わない人数であったということです。

その他の課題としては、もう少し話し合う時間が必要、子育て世代の参加をどう促すか、託児が必要ということでした。

それで改善案ということで、まず分科会への参加者の減少をどう防ぐかということを皆さんで考えました。

1つ目は、アトラクションで発表した子どもと、その保護者を分科会に参加できるような手立ての工夫。

2つ目に、分科会へのモチベーションを上げるため、発表内容を全体会にてアピールしたり、分科会会場に入りたくなるような看板をつくったり、行ってみたいと思わせるようなチラシを作成すること。

3つ目に多目的ホールから出さず、ワールドカフェ方式をしたらどうか、という案が出ました。

そもそも激減の理由について私が思いますに、私たちが計画を練り上げる段階で、悩みを出し合うような会を想定していたのですが、参加者の意図がそこにはなかったのではないかとということです。

行ってみて、いろんな活動を知って、その後で参加してみようかなと思えるくらいでいいのではないかなと思いました。

そこで今回の中心のテーマですが、改善案の具体的な提示となります。

A案として、今回の分科会が5つでしたので、これを減らせば一つ当たりの参加者数が増えるという案

B案は全体会と同じ多目的ホール内で分科会会場を作ってワールドカフェ方式をメインとして、開会行事を簡素化し、分科会をした後、まとめ、閉会行事を行うという案

C案は分科会方式をやめ、5回目以前と同じようにするという案。ただし質疑交流が少なくなってしまうのでどうか、とは思います。

その後の検討課題については次回でもいいですし、テーマや発表者が決まってからでもいいと思います。

今日はまずこの3案につきまして、2人ずつ分かれていただいて20分ほど意見交換をしてもらって、グループごとの意見を出して頂いて、最終的に一人ずつの意見を出してもらいたいと思います。

(松本・角森委員ペア、國友・橋爪委員ペア、村山、秋山委員ペアに分かれ協議。その間に平島委員が國友委員ペアに合流、丸井委員は松本委員ペアに合流し、20分経過)

ではよろしいでしょうか。3つのグループで順番に発表をお願いします。

秋山委員：

はい、私たちの方からは、まず参加者が激減した理由とその改善策とが重なる部分がありますので、先に具体案から述べさせていただきます。

まずA案を改善していくという結論が出たのですが、これは消去法ではありますが、B案のワールドカフェ方式は参加者が減らないというメリットはあるかと思いますが、発表者がやりづらい状況があるのではないかと危惧いたしました。今回私と村山委員は鹿部子育てサロンを担当いたしました。パワーポイント以外の実践方式での発表をする場合など、ワールドカフェ方式では発表者への負担を考えると少し難しいのかなと感じました。

同様にC案ですが、分科会自体は好評でしたので、それをやめるというのはどうかと思い、分科会の数を減らし、参加しやすい状況を作るのがいいのかなと思いA案となりました。

それから発信方法についても話がでたのですが、今回も発表者につながるのある方に声掛けをした結果、参加者が確保できましたので、発表者自らが声掛けをしていくのがいいのかなという意見が出ました。

松本議長：

はい、ありがとうございました。では次のグループをお願いします。

橋爪委員：

はい、我々の結論は、A案を改善しようということになりました。

全体会は必要で、全体会で土台を共有したうえで分科会へという流れがいいのではないかと思います。今回の激減の原因は、出たらすぐに階段があって、出口があると状況で、どうしても能動的に参加していない人たちにとっては移動のついでに帰ろうかなという気持ちになってしまうのかなと。

ですので、全体会の中で分科会の詳細を紹介し、理解してもらったうえで、A分科会に行く方はこちらへ、などその場で行き先別に分かれてもらい、担当委員が引率をして分科会会場へ連れていけば、激減は避けられるのかなと思いました。

分科会の数はテーマによりけりだと思いますが、引率や紹介の仕方で改善ができるのではないかと思います。

ました。

國友委員：

B・C案の補足ですが、ワールドカフェ方式は一つの会場で行うとどうしても音の反響が大きくなり、聞き取りが難しくなることが考えられます。

また、C案についても1年でやめるというのはどうかと思いますし、「えんたくん」を分科会で利用するのはいいかなとも思いました。

松本議長：

ありがとうございます。では角森委員お願いします。

角森委員：

はい、私と松本議長の話し合いでは、皆さんから出ていないB案となりました。

やはり分科会形式は初回の一回で諦めるのではなく、お話を聞くだけでなく、来られた方も参加できる方法がいいと思いますし、その方法としてワールドカフェ方式を選んだのは、全体会で頭出しをして、分かれてから何度も発表してもらうのであれば、発表者にも満足していただけるのではないかと、また一つの会場でわいわいと飲食も含めて楽しんで、笑顔で帰っていただくには、ワールドカフェ方式がいいのではないかと思いました。

C案はなしです。来られた方も分科会にはまだ慣れていないということもありますので、何度か繰り返すのが必要だと思いました。

松本議長：

発表者も参加者もいくつも発表をできる、聞けるということで双方とも満足して笑顔になれるのではないかといいことですね。

ではいろいろな意見がでましたので、それを踏まえて一人一人の意見を聞きたいと思います。

もちろん意見を変えられても構いません。

角森委員：

私はB案で変更ありません。ただ、集め方や引率をするというのはいい意見だなと思いました。

私がB案を推したのは、分科会方式では初めからここに行くというのがある程度決まっていますが、ワールドカフェ方式のようにランダムに回されて興味のなかった話を聞くうちに、新しいことに興

味を持つことがあるのではないかと考えたからです。

丸井委員：

私もワールドカフェ方式がいいと思います。

全体会の紹介で、はじめは聞きたいところに行き、その後いろいろな話を聞いてもらってその情報が合算されていけば、自分のためにもなるし、何かをするときにも役立つのではないかと思います。

また、声の反響については以前多目的ホールで7つのグループに分かれたことがありましたが、その時はうまくいきました。

村山委員：

私はA案です。パワーポイントで発表を聞いて意見を出し合ってまとめる、というのが一般的な流れかもしれませんが、いろいろな体験型などの形式があるのも参加者がより楽しめるのではないかと思います。

そのためには別々の部屋で、いろいろな形で活動するというのいいのではないかと思います。

人の集め方についても、ビラを配るのもいいですが、先日の（図書館主催の）ビブリオバトルでは、宗像の方が盛況だったのでこちらの図書館がその理由を尋ねたのですが、ロコミだったそうです。

鹿部子育てサロンも発表者の尽力で人が集まったので、ロコミも大事だなと思いました。そうすれば参加者も20人ほど集まり、今年のように成功するのではないかと思います。

秋山委員：

私も村山委員と同じく、A案です。

B案については私も何度かグループワークをした経験がありますが、アンケート結果に「隣の声が気になった」という意見がちらほら見られました。

また、A案につきまして先ほど出ました引率をしていくという案がとても面白いなと思いました。

橋爪委員：

私も今年をベースに、A案の改善を図るという意見です。

ワールドカフェ方式と分科会方式とではメリットデメリットが違います。分科会方式は濃い時間が過ぎますし、ワールドカフェ方式は広く知っていただくことができる。

まずは分科会方式をしばらくやってみるのがいいのではないのでしょうか。

私もワールドカフェ方式を体育館でやったことがあるのですが、前と後ろに遠く離れても、やはりお互いの声は気になりましたので、音については課題であると思います。

國友委員：

私もA案ですが、前回5回を同じ形式でやってきて、今回せっかく変えたのに1年でやめるというのは、私たちの不足分の反省もありますし、来年はなおのこと改善をして、集め方や引率の工夫をして激減を緩和する方がいいと思います。

そのためにはどの分科会に行きたいか、事前に興味を抱かせるような紹介の仕方が大事だと思います。

平島委員：

私もA案に賛成です。

アトラクション参加者にも出てもらえるようにしていきたいです。

それに、ワールドカフェ方式は、最近流行っておりますが、我々70歳以上には不慣れなもので、もしテーマを高齢者にした場合、ちょっとなじまないのではないかと思いますので、つどいのテーマは若い人に向けたものにしていった方がいいのかなと思いました。

松本議長：

私はB案です。笑顔のつどいの主旨からいきますと、発表者、参加者共に満足し、笑顔で楽しんでいただけのワールドカフェ方式だと思います。

では集約しますと、参加者8名中、A案が5名、B案が3名ということで、多数決で来年度はA案を採用するというのでよろしいでしょうか。

角森委員：

そこでちょっと提案ですが、分科会は一つしか回れませんので、半分ワールドカフェ方式を入れて半分くらいで交代するというのはいかがでしょうか。

松本議長：

もしそれを時間的に可能にするとなれば、全体会の発表を30分取りましたが、これを削除するという方法もありますね。

今角森委員の出された折衷案につきましては次回以降の検討事項としましょう。

では次回の検討事項は、A案に基づいて、アトラクションの配置や発表者の推薦、分科会をいくつにするか、分科会の紹介方法や移動をどうするか、分科会を移動するなら手持ちのペーパーをどう工夫するかなど考えてきていただいて、いろいろな意見を練り上げていきたいと思います。

そこで、発表者の推薦ですが、次回までに各自実践発表の発表者とアトラクションの発表者を出して頂いて、事務局まで提出していただきますようお願いいたします。

私も少し早いのですが、分科会の内容的な構成を考えて、前回秋山委員が紹介されました、こども食堂の古賀版、千鳥苑の「たまりば」を紹介させていただきたいなと思います。

第1分科会では「食」の提供、第2分科会では「遊びの場」の提供などさまざまな視点、角度からの分科会構成にできたらいいなと思いますので、皆さんの人脈で推薦してください。

國友委員：

今回のテーマですが、生涯学習ですので高齢者を対象にしたテーマもたまにはどうかと思いますが。

松本議長：

昨年の会議で第6回以降は青少年の健全育成をテーマとすると決定しておりましたので、2年程度は継続ということで次回もそれを継続したいと思います。

8回目以降はいろいろ高齢者福祉などですね、先日の八女地区の視察研修の際の中村課長の「救済の福祉から貢献の福祉へ」という言葉に非常に感銘を受けましたので、地域に貢献している高齢者の活動の紹介は大事じゃないかと思いますので、考えていけばいいのではないかと思います。

ということで、次回の宿題として、アトラクションと実践報告者の推薦をお願いいたします。

事務局に事前に提出してもらうことにしてよろしいですか？

事務局：

事前にいただければ次回一覧にまとめてご用意できます。

もしよろしければ、推薦団体の連絡先とお名前と電話番号等を提出いただきますと助かります。

松本議長：

それでは次に進みたいと思います。

では國友委員より報告があります。

國友委員：

はい、私からはミリカローデン那珂川での研修会で紹介された、国立青少年教育振興機構の資料です。

「へこたれない力」というのが興味深く、家庭・地域・学校における体験との関連付けが調査結果としてまとめられています。

後半の、地域との関わりというところがありまして、いろいろな体験が子どもを育むうえで必要なんだなということが挙げてあり、コミュニティや地域の役員さんたちにも紹介したいところです。

詳しくはこの機構のHPにいろいろと上がっているようですので、ご紹介いたします。

松本議長：

ありがとうございます。この資料は大変いい資料で熟読していただきたいと思います。

この報告は、全国規模の調査でも有意なデータとして明らかに出しております、私はこの時講師の伊藤克治先生に直接、地域の物・事・人との関わりがどうして学力の向上やへこたれない力に結び付くのかを質問したのですが、先生の私見によれば、地域の人々をはじめとした「大人」との交流は、コミュニケーション能力の向上、話す力や人に積極的にかかわる力や失敗を乗り越える力を養い、また褒められるという事で自信を持つという原体験が、結果的に学力やへこたれない力の向上につながるのだろうということでした。

皆さんも今後とも地域と子どもに関わる人が多いと思いますので、是非そのあたりを大切にしてくださいと思います。

それから、私からの報告ですが、これは11月14日の糟屋地区社会教育連絡協議会の研修報告です。議長である私と事務局から村上補佐が参加しまして、筑後市立図書館の見学と一ノ瀬館長からお話を伺いました。

古賀市でも活字離れや図書館の利用率の減少が問題となっておりますが、一ノ瀬館長から公募により館長に就任した当初は日に100人ほどしかいなかった利用者を、10年間で3倍にした秘密をお聞きしました。

とにかく熱意のある方で、添付の記事にもありますように館長自身がトップセールスということで、地域に足繁く通って地道に営業し、職員に対しても市民に誠実に向き合えるように指導したり、企画を自ら打ち出したりと、職員からもどうして館長はあんなに情熱を持っているのかと驚かれるほどでした。

それに対する館長の答えは「子どもは親を選べない。夢を諦めてほしくないからこそ、図書館がその手助けになれば」というぶれない理念をお持ちだと、いい勉強になりました。

社会教育委員の皆さんも図書館の利用を増やすにはどうすればいいかを一緒に考えていければいいと思いますし、職員さんも高い理念と情熱を持っていただきたいと思います。

では次に進みます。

角森委員：

子育て事業計画についてご報告です。子育て支援課にて現在策定中のこの計画について、パブリックコメントを実施いたしますので、よろしかったら市役所のHPからご一読いただけたらと思います。



中村課長：

HPでも掲載しますが、パブリックコメントが実施されればリーパスプラザこがでも閲覧可能です。

松本議長：

他になれば事務局からお願いします。

事務局：

はい、では研修としては今年度最後になりますが、1月25日（土）にアザレアホール須恵にて社会教育委員研修会がございます。

詳細は11月28日の会議にて決定しますが、おそらく午後からの時間帯で、生涯スポーツについてのテーマになるかと思います。

研修は行ってみなければわからないといいますが、行ってみて初めて興味がわいたりすることもありますので、是非多くの委員さんの参加をお願いしたいと思います。車の手配はいたしますので、乗り合わせていきたいと思います。

松本議長：

出席自体は次回会議にて取りたいと思います。スポーツ活動としてのまちづくり、というようなテーマだったかと思います。

では次、社会教育関連行事の予定ですね。

事務局：

前回より添付するようしております、生涯学習推進課、文化課、青少年育成課主管の行事のご紹介です。直近ではルーマニア柔道選手団の事前キャンプですね。これは古賀市と福津市がルーマニアのホストタウンとなっております、本物のオリンピック選手と交流できる機会となっております。

その他生涯学習推進課事業としましては、12月7日の歩いてん道ウォーク、今回は薦野を歩くようです。

それから折しも先ほど議長からご紹介のありました、前回秋山委員からのご報告に飛びついた形ではございますが、フードバンク福岡とHUGこさんの協力で、食育とSDGsをかけた家庭教育ひろばができないかということで、日程調整中です。

フードバンク福岡の宗像事業所は、実は舞の里のエフコープにありまして、それらの紹介や食育について盛り込んで、相当面白い企画となっております。

この詳細も次回会議までにはご紹介できるかと思います。

中村課長：

補足させていただきます。

フードバンクとの連携の取り組みですが、SDGsも啓発の材料に加えようと思っています。世界の飢餓というのが遠いことのように思われるのですが、一歩は自分の一歩からということ啓発していくことが社会教育の一つであると考えますので、実感できる自分にできることということでSDGsをひきつけながらの取り組みにしたいと考えております。

また、ルーマニアキャンプ関連ですが、11月30日にイオンモール福津で行われる「親子で学ぼう！ 楽しもう！ 古賀・福津スポーツフェスタ2019」というイベントのチラシをお配りさせていただいております。

この日はルーマニア柔道選手も参加予定ですし、オリンピックによるトークショーではリオデジャネイロオリンピックの銅メダリストである近藤亜美選手も銅メダル実物をお持ちいただけるそうです。

それから明後日、11月22日金曜日ですが、ラグビーワールドカップで大活躍をされました福岡堅樹選手が古賀に里帰りされまして、10時から10時半の間、古賀市役所第2庁舎との間のホールにて市長からの感謝状贈呈や報告会を行いたいと思いますので、よろしければご参加ください。

松本議長：

では他に連絡がなければ事務局からお願いします。

事務局：

では次回の会議の日程をお決めいただきたいと思います。年内はこれが最後となりますので、10日の週あたりがよろしいのではないかと思います。

この時期であれば、研修の詳細等のご説明もできるかと思います。

松本議長：

では出席できない方は挙手をお願いします。

(全員参加できる日がないため) 19日、橋爪委員だけが出席できないとのことですが、この日でよろしいでしょうか。

(橋爪委員了承)

事務局：

では、12月19日木曜日19時から、会場は追ってご連絡いたします。

また、提出していただきます推薦団体についてのご連絡方法ですが、団体名・連絡先氏名・電話番号の

3点を明記されて、こちらからの開催案内メールへの返信でも、お持ちいただくのも結構ですので、ご提出いただくようお願いいたします。

事務局からは以上です。

松本議長：

では終わりの言葉を副議長よりお願いします。

角森委員：

偶然にも今日学生に講義したのですが、食品ロス削減推進法が5月に法案が通過して、10月1日から施行されておりました、フードバンクの話もしておりました。

「3010運動」という、宴会時の食べ残しを減らすキャンペーンがありまして、初めの30分は席を立たずに料理を味わい、最後10分間自席に戻って料理を残さず食べましょうというもので、男性は特に食品ロスについてお考えいただけたらと思います。

皆さんお疲れさまでした。